

# 横浜市郊外住宅地における愛着・思い出のある場所に関する考察 —地域資源の発掘と発信に関する実践的取組を対象として—

A Study on Places with Attachments and Memories in Residential Suburbs of Yokohama  
- For a Project of Extraction and Expression of Local Resources -

○上野正也\*1, 山家京子\*2, 松本安生\*3

UENO Masaya, YAMAGA Kyoko, MATSUMOTO Yasuo

Yokohama City is promoting sustainable town development for residential suburbs. The purpose of this paper is to clarify the characteristics of places with attachments and memories obtained through the "project to foster attachment to the community". As a result, in addition to the parks that were constructed at the beginning of the development, many open spaces such as roads and streets with viewpoints were mentioned. Furthermore quantitative analysis of demographic factors and places of attachment revealed that the spatial characteristics of each district influence the number and direction of attachments.

キーワード：まちづくり, 郊外住宅地, 地域資源, 愛着, 持続可能性

Keywords: Town Planning, Residential Suburb, Local Resources, Place Attachment, Sustainability

## 1. はじめに

横浜市は、様々な課題を抱える郊外住宅地 4 地区をモデル地区として、持続可能な住宅地推進プロジェクトを展開し、鉄道事業者や大学等と連携したまちづくりを推進してきた。その中で筆者らは、横浜市との協定に基づき「地域への愛着を育む取組」を進めてきた<sup>①</sup>。

当該取組に関しては、拙稿「横浜市郊外住宅地における地域資源の発掘と発信に関する実践的取組」にて既に報告している<sup>②</sup>。そこでは、十日市場、霧が丘、若葉台という十日市場駅勢圏域 3 地区において実践した取組内容を報告するとともに、住民意識調査の結果から、愛着のある場所が複数ある住民は、定住意向が高いという知見が得られた。そして、地域資源の発掘と発信に関する取組は、地域への愛着を育む手法として有用であったことが示唆された。

一方既報では、取組の継続的な検証を要するとし、また、地域資源や愛着・思い出のある場所と各地区の空間的特徴との関係に関する考察は今後の研究課題とした。

そこで本稿は、当該取組の検証を行うとともに、実践的取組を通じて得られた愛着や思い出のある場所の特徴を明らかにすることを目的とする。さらに、居住年数やライフステージ、ライフスタイルといったデモグラフィック要因に着目し、愛着のある場所との関連について考察する。なお、十日市場駅勢圏域内 3 地区にて実施した取組の概要は表 1 の通りである。また各地区の概要及び位置を表 2 に示す。

表 1 取組概要

各取組の概要
<p><b>1) たからもの探しワークショップの開催とたからものマップの制作</b> 地域資源の発掘を目的として、3地区ごとに地域住民を対象に「たからもの探しワークショップ」を開催した。そこで得られた地域資源(特徴的な場所、景観、歴史、施設等)を建築学科学学生の目線で編集し自治会等の協力による精査を経て「たからものマップ」としてまとめている。</p> <p><b>2) 思い出のある場所、ライフスタイルに関するヒアリング調査とカードの制作</b> 思い出のある場所：個人の思い出が刻まれている場所とそこにまつわるエピソードを把握した。ライフスタイル：地域住民の1日の過ごし方と特徴的な生活シーンを把握した。</p> <p><b>3) 愛着のある場所と住民意識に関するアンケート調査</b> 3地区で無作為に抽出した住民を対象としてアンケート調査を実施した。愛着のある場所は、たからものマップを同封したうえで、25ヶ所程度の選択肢からの複数選択および自由記述で回答を得た。調査は、神奈川大学人間科学部専攻科目「社会調査法(含む実習)A1・II」にて検討・実施した。配布枚数と有効回答数等は以下の通り。 ・十日市場 配布:1,500名, 有効回答数 390(有効回収率 26.1%) / 実施時期: 2017年8月 ・霧が丘 配布:1,000名, 有効回答数 354(有効回収率 35.4%) / 実施時期: 2018年8月 ・若葉台 配布:2,000名, 有効回答数 873(有効回収率 43.7%) / 実施時期: 2019年7月</p> <p><b>4) 市民記者養成講座及び聞き書きプロジェクト及び取組み成果の冊子化</b> 地域資源の発信を目的として、十日市場・若葉台地区にて、市民記者養成講座を実施し、霧が丘では聞き書きプロジェクトを実施した。このうち、十日市場・若葉台では、地域魅力をウェブ上で発信する団体が立ち上がるなど地域住民の自主的な活動に結びついている。</p>

\*1 神奈川大学建築学部建築学科、准教授、博士(学術)

\*2 神奈川大学建築学部建築学科、教授、博士(工学)

\*3 神奈川大学人間科学部人間科学科、教授、博士(工学)

Assoc. Prof., Dept. of Arch., Fac. of Arch. & Bldg. Eng., Kanagawa Univ., Ph.D.

Prof., Dept. of Arch., Fac. of Arch. & Bldg. Eng., Kanagawa Univ., Dr. Eng.

Prof., Faculty of Human Sciences, Kanagawa Univ., Dr. Eng.

表2 地区概要と十日市場駅勢圏域

地区	概要	十日市場駅勢圏域
十日市場	人口 15,467 人、世帯数 7,831 世帯 団地：ヒルタウン 横浜市営住宅 (2,334 戸) と UR 住宅 (549 戸) 駅勢圏域の核となる十日市場駅を有し、行政施設として、地区センター、地域ケアプラザ、図書館、子育て支援拠点などが立地する。また、団地部分は横浜市営住宅と UR 住宅からなるが、センター地区と呼ばれる街区では横浜市が主導し脱温暖化モデル住宅の建設や民間開発(集合住宅等)を誘導している。	
霧が丘	人口 11,680 人、世帯数 5,053 世帯 団地：霧が丘グリーンタウン:UR 住宅(分譲 1,483 戸、賃貸 848 戸) 戸建住宅地と大規模団地からなる。「あかみち」と呼ばれる歩行者専用道路が街区と公園、小学校などの施設を繋いでいる。また、2つの大学キャンパスが地区内に立地する。	
若葉台	人口 13,596 人、世帯数 6,715 世帯 団地部分：神奈川県住宅供給公社(分譲 5,186 戸、賃貸 790 戸、ほか) 4つの住区からなり、それらが歩行者専用道路で結ばれ、歩車分離が徹底されている。センター地区には商業施設や広場、地区センターのほか、コミュニティカフェや子育て支援施設などが立地する。	

2. 地域への愛着を育む取組の検証

地域への愛着を育む取組に対する検証として、十日市場、霧が丘、若葉台の3地区において、まちづくり活動を担っている団体等を対象にヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の概要を表3に、ヒアリング項目及び回答結果を表4に示す。

まず、取組全体に対する評価としては、「とても良い・良い」の回答が多くを占め、行政と大学が当該地域で活動すること、ならびに、当該取組の目的である「地域への愛着を育む」という点において、評価が得られた。また、回答者全員が、まちに対して新しい発見や気づきがあったと回答した。具体的には、長年住んでいても知らない場所があった、といった意見や、まちの魅力を知ることができた、などの意見が聞かれた。さらに、地域住民が自らのまちについて考えるきっかけとなる、といった意見が出されるなど、当該取組が地域の良さや魅力について改めて考え、認識するきっかけになっている。

このほか、当該取組が地域住民の定住意向醸成につながるとの回答が多く得られた。一方で、一過性の取組だと定住の意識を深めるまでには至らないのではないか、といった指摘もみられた。

次に個別の取組についての評価としては、全ての取組において、概ね「とても良い・良い」という回答を得た。例えば、「思い出カード」に対しては、当該地域に思い出をたくさん持っている人がいるということを確認できることが良い、といった意見が出された。また、報告書に対しては、冊子化していることで、新たに引っ越してきた人に対して、まちのことを知ってもらうきっかけとなる、といった声もあった。

一方で、活動成果が十分に地域に共有されていないという点が課題であるとの指摘があった。

また、一連の取組が終わってから時間が経ち、情報の更新が必要となっているという指摘や、報告書を使って

再度ワークショップを行うことで、地域の魅力について語り合う場をつくれるのではないかと、といった活動の展開や可能性について意見がだされた。

以上から、地域への愛着を育むという取組の目的に対して、ならびに、地域住民の定住意向醸成につながる取組として、一定の評価を得ることができた。一方で、活動成果が十分に発信できていないという課題や、取組の継続性を含めた今後の展開について意見が示された。

表3 ヒアリング調査の概要

方法	対面にて取組について説明を行い、調査票に評価を記入する方法で回答を得た。その上で、意見交換を行い、より詳細に評価に関するコメントを収集した。
対象	各地区でまちづくり活動を担うNPO法人や一般社団法人、情報発信等の活動を行う団体、地域福祉施設運営団体、公社
回答数	20
実施日	2022年5月15日、28日、6月6日、21日

表4 ヒアリング項目及び回答

ヒアリング調査結果集計表					
Q1 当該取組を知っているか					
1.良く知っている	2.少し知っている	3.知らない			
7	10	3			
Q2 当該取組に対する全般的な評価					
行政と大学が地域で活動することに対する評価					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
17	2	0	0	1	
「地域への愛着を育む」という目的に対する当該取組内容に対する評価					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
13	7	0	0	0	
まちに対する新しい発見や気づきの有無					
1.ある	2.ない				
20	0				
具体的な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長年住んでいても知らないところがあった。行ってみたいと思った。歴史も知ることができた。</li> <li>・普段暮らして気づけていなかったまちの魅力を知ることができた。</li> <li>・建築学科の学生という目線が入ることで、まちの見方を知れた/新しい発見があった/客観的な視点を得た。</li> <li>・今と比べて変化したところ、昔から変わらない場所があるということを知れた。</li> <li>・地域の人が自分達のまちを考える機会として良い。</li> </ul>					
当該取組が住民の定住意識醸成につながるか					
1.思う	2.思わない				
18	2				
具体的な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方が地域について考えるというプロセス自体が愛着につながると思う。</li> <li>・自分のまちの良さを知る機会があれば「やはりここが良い」と思える。</li> <li>・場所だけでなく、そこに住む人(個人)を感じることにつながるので、愛着をもつきっかけになる。</li> <li>・定住意識の醸成には、取組が一過性のもので終わるのではなく、継続されることが大事。</li> <li>・自分達の世代だけでなく、子どもの世代がまちに愛着を持てるような取組が必要ではないか。</li> </ul>					
Q3 個別の取組に対する「地域への愛着醸成」の観点からみた評価					
たからもの探しワークショップ及びたからものマップの制作					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
15	5	0	0	0	
思い出カードの制作(思い出のある場所のヒアリング)					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
13	6	0	0	1	
ライフスタイルカードの制作					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
11	6	0	0	3	
市民記者養成講座(ママライター養成講座)/聞き書きプロジェクトについて					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
13	6	1	0	0	
住民意識調査(愛着のある場所の調査を含む)					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
17	3	0	0	0	
取組をまとめた報告書の制作・配布					
1.とても良い	2.良い	3.あまり良くない	4.悪い	5.どちらとも言えない	
15	4	1	0	0	
具体的な意見					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・思い出カードは、こんなにたくさんの人が思い出をもっているというのがわかる。</li> <li>・引越してきてまちのことが良く分からないという人に対して、まちに対する理解が深められる。</li> <li>・情報の更新が課題。情報をWebサイトで公開するなど、興味をもちそうな人に届けることが重要。</li> <li>・取組をまとめた冊子を地域学習のツールとして活用していくことができるのではないかと。</li> <li>・取組を振り返りながらまちのことについて話す機会が生まれると良い。</li> </ul>					

### 3. 愛着・思い出のある場所の特徴

本章では、たからものマップより各地区の空間的特徴を整理し、愛着・思い出のある場所と照らし合わせることで、地域において個人がどのような場所に愛着を有しているか、その特徴を明らかにする。

#### 3-1. たからものマップにみる空間的特徴

たからものマップにおいて示された場所を表5の通りまとめ、空間的特徴を整理する<sup>3)</sup>。なお、得られた場所の特徴が明確になるよう7つの項目で分類し、さらにオープン型と施設型とに属性を分けた。

まず、十日市場においては、「道路・街路」に関連する場所が多く挙げられている。例えば、土地の起伏を感じる場所(No.4)や、里山風景を臨むことができる場所(No.5, 図1)、駅から続くプロムナード(No.6, 図2)などがある。また、富士山がみえるポイント(No.10)や桜・イチョウ・モミジの並木道などの街路空間が挙げられた。

このほか、十日市場地区センターや子育て支援拠点、駅などの「施設」、ベーカリーや飲食店などの「店舗」、そして、水田(図3)や親水空間、里山が挙げられている。このように、地区センターなどの公共施設が立地する一方で、豊かな自然環境を有し、また、計画的に配置された公園や並木があるといった、十日市場地区の空間的特徴がたからものマップに表れている。

霧が丘は、横浜市が設置する子どもの遊び場であるログハウス(No.21)や幼稚園(No.26,27)、大学(No.28,29)などの「施設」が多く挙げられた。また、歩行者専用道路のあかみち(No.2, 図4)や、街路樹の並木道(No.5,6,7, 図5)、そして、富士山が見えるスポット(No.9)などの「道路・街路」に関連する場所も多く挙げられているほか、市民の森(No.12,15)といった緑地も挙げられた。

このように、開発とともに整備された「あかみち」をはじめとして、多様な道路・街路によって公園や施設、緑地が結ばれているといった当該地区の空間的特徴が表れている。

若葉台においても、歩車分離(No.8)や豊かな山道(No.10)など「道路・街路」に類する特徴的な場所が多く挙げられた(図6)。また、地区内の植栽や緑地に類する場所(No.22,23,24)や「公園・広場」も他地区に比べ多く挙げられている(図7)。

当該地区は、開発前の植生を保全するよう開発が進められ、また、徹底した歩車分離によって緑豊かな歩行者専用道路が創出されていることから、これらが空間的特徴として位置づけられている結果となった。

なお、「歴史施設・スポット」は、各地区において歴史性を感じる場所が挙げられているが、十日市場は、神社や史跡などその種類が多様である点が特徴といえる。

表5 たからものマップに示された場所

NO	十日市場	分類	属性	NO	霧が丘	分類	属性	NO	若葉台	分類	属性
1	パノラマスポット	公園・広場	オープン型	1	公園(霧が丘公園, 萱場公園, 草木公園, 霧が池公園, 中丸公園, 鉄谷公園)	公園・広場	オープン型	1	あおり	公園・広場	オープン型
2	駅広場とシンボルツリー	公園・広場		2	ふれあい広場	公園・広場		2	ふれあい広場	公園・広場	
3	公園(東公園, 西公園)	公園・広場		3	あかみち	道路・街路		3	プレイパーク	公園・広場	
4	起伏に富んだ土地と階段	道路・街路		4	あかみち	道路・街路		4	森の中のアスレチック	公園・広場	
5	日本昔話風の風景	道路・街路		5	歩車分離	道路・街路		5	テニスコート	公園・広場	
6	ヒスタ(プロムナード)	道路・街路		6	カーブの連なり	道路・街路		6	じゃぶ池	公園・広場	
7	太鼓橋	道路・街路		7	桜の並木道	道路・街路		7	公園(若葉台公園, 日向根公園, 大貫谷公園等)	公園・広場	
8	カエルの神(銅像)	道路・街路		8	モミジパフウの並木道	道路・街路		8	桜並木	道路・街路	
9	横浜線の車両	道路・街路		9	ケヤキの並木道	道路・街路		9	歩車分離	道路・街路	
10	富士山の見えるポイント	道路・街路		10	鎌倉道のヒノキとスギ	道路・街路		10	高低差	道路・街路	
11	フカンとアオリ	道路・街路		11	富士山の見えるスポット	道路・街路		11	豊かな山道	道路・街路	
12	カーブの道なり	道路・街路		12	俯瞰景観	道路・街路		12	くわくね道	道路・街路	
13	アースカラーの舗装	道路・街路		13	高低差と植栽計画	道路・街路		13	歩行者と自転車の分離	道路・街路	
14	絶景の桜・イチョウ・モミジの並木道	道路・街路		14	新治市民の森	農地・緑地・里山		14	木のトンネル	道路・街路	
15	田んぼ	農地・緑地・里山		15	パンジー	農地・緑地・里山		15	季節で変化する道	道路・街路	
16	十日市場小学校の米作り体験	農地・緑地・里山	16	ナンキンハゼ	農地・緑地・里山	16	グレーチング	道路・街路			
17	十日市場myライズ倶楽部	農地・緑地・里山	17	三保市民の森	農地・緑地・里山	17	名前の刻まれたタイル	道路・街路			
18	一本橋めだかひるば	農地・緑地・里山	18	くわの木	歴史施設・スポット	18	若葉台の境界線	道路・街路			
19	空と大地(田園風景)	農地・緑地・里山	19	旧鎌倉道	歴史施設・スポット	19	真鶴石	道路・街路			
20	岡まね感(谷戸)	農地・緑地・里山	20	大弁財徳神社・開発記念碑	歴史施設・スポット	20	木のカーテン	農地・緑地・里山			
21	十日市	歴史施設・スポット	21	三角点	歴史施設・スポット	21	天使の湖	農地・緑地・里山			
22	日向山神社	歴史施設・スポット	22	団地の日射計画	住宅・団地	22	木の顔	農地・緑地・里山			
23	北門古墳群	歴史施設・スポット	23	霧が丘学園	施設	23	一丁目の花壇	農地・緑地・里山			
24	北門	歴史施設・スポット	24	ログハウス	施設	24	ウワミズザクラ	農地・緑地・里山			
25	寶袋寺・庚申塔	歴史施設・スポット	25	霧の里	施設	25	タマノカンアオイ	農地・緑地・里山			
26	お福荷さん	歴史施設・スポット	26	あかしあ	施設	26	帷子川の水源	農地・緑地・里山			
27	段々のまちなみ	住宅・団地	27	Kurosawa Film Studio	施設	27	小川アメニティ	農地・緑地・里山			
28	脱温暖化モデル住宅(ミナガーデン)	住宅・団地	28	横浜あすか幼稚園	施設	28	あひるのお墓	歴史スポット			
29	ヒルタウンの休憩椅子	住宅・団地	29	横浜マドカ幼稚園	施設	29	茶室	歴史スポット			
30	借景(十日市場駅)	施設	30	横浜創英大学	施設	30	杉の境界線	歴史スポット			
31	十日市場小学校	施設	31	東洋英和女学院大学	施設	31	ピコちゃん(サイン)	住宅・団地			
32	まちのメロディ	施設	32	昭和大学	施設	32	俯瞰	住宅・団地			
33	懐吾ママの作品	施設	33	アパロン・ヒルサイドファーム	施設	33	免震構造	住宅・団地			
34	子育て支援拠点いっぽ	施設	34	霧が丘高校	施設	34	わかば学園	施設			
35	十日市場地区センター	施設	35	霧が丘センター	店舗	35	まちづくりセンター	施設			
36	にいばる里山交流センター	施設	36	ぶかぶか	店舗	36	Wakabadai Village of Sports & Culture	施設			
37	地元行きつけの飲み屋	店舗	37	居酒屋	店舗	37	支援・交流施設	施設			
38	雑貨屋	店舗									
39	野菜の直売店	店舗									
40	インパクトのある中華料理屋	店舗									
41	まちのベーカリー	店舗									
42	ババの居場所	店舗									
43	シニア行きつけの喫茶店	店舗									
44	ビール醸造所	店舗									

分類: 公園・広場 / 道路・街路 / 農地・緑地・里山 / 歴史施設・スポット / 住宅・団地 / 施設 / 店舗

属性: オープン型 / 施設型

※1「眺め」に類する項目は、ビューポイント(道路や公園など) また「オブジェ」もそれが存在する場所としている



左：図1 里山風景を臨む場所(十日市場, No. 4)  
右：図2 十日市場プロムナード(十日市場, No. 6)



図3 田んぼ(十日市場, No. 15) 図4 あかみち(霧ヶ丘, No. 2)

### 3-2. 愛着・思い出のある場所

各地区にて実施した、ヒアリング調査及びアンケート調査を通じて得られた「思い出のある場所」と「愛着のある場所」をそれぞれ表6、表7の通り整理した。なお、主な「思い出のある場所」を図8に示す。

まず、思い出のある場所では、3地区共通して「公園・広場」に分類される場所に関する思い出が多く語られたことが特徴といえる。そこでは、昔遊んでいた記憶を繰り返し想起させるような場所として位置付けられているものや、花見や夏祭りといったイベント的な思い出に加え、子どもと一緒に遊んだ思い出など、日常的な記憶が場所に紐づいている。特に霧ヶ丘に関しては、霧ヶ丘公園という一つの場所に対して、多くの思い出が複層している点が特徴といえる。

また「道路・街路」において、桜並木が3地区共通し挙げられているなど、地区の特徴的な空間が個人の思い出を刻む場所にもなっている。地区別に見ると、十日市場の「農地・緑地・里山」や「住宅・団地」において、地域資源と個人の思い出の重なりがみられる。しかし、霧ヶ丘、若葉台における「農地・緑地・里山」「住宅・団地」に関しては、思い出のある場所として語られることが少なかった。また、若葉台では「歴史施設・スポット」はみられず、他2地区は場所が限定的であった。

一方「施設」では、子育て支援拠点(十日市場)やログハウス(きりっ子ランド・霧ヶ丘)に関する思い出が多くを占めるなど、子育てのライフステージと場所が紐づき、思い出のある場所となっている様子がうかがえる。このほか、十日市場駅や地区センター、地域ケアプラザや交流施設など、身近な場所も思い出のある場所とされた。



図5 桜の並木道(霧ヶ丘, No. 5) 図7 じゃぶ池(若葉台, No. 6)

図6 歩行者と自転車の分離(若葉台, NO. 12)

表6 各地区の思い出のある場所

十日市場	霧ヶ丘	若葉台	属性
公園・広場	公園・広場	公園・広場	オープン型
十日市場駅前広場(2) 東公園(6) だんご山公園(2)	霧ヶ丘公園(9) 宣場公園(2) 草木公園(2) その他公園(4)	じゃぶ池(5)、日向根公園(2) ふれあい広場(3) ジャンボ公園(2) 若葉台公園・グラウンド・ アスレチック広場(4) その他公園(5)	
道路・街路	道路・街路	道路・街路	
太鼓橋、太鼓橋の桜(2) 桜並木(2)、楓並木(1) 田んぼ道(1)	あかみち(3)、桜並木(3) その他団地内の道(2)	団地内の道(4) 桜並木(2)	
農地・緑地・里山	農地・緑地・里山	農地・緑地・里山	
めだか広場(1)、恩田川(1) 田んぼ・田園風景(1)	—	市民の森(1)	
歴史施設・スポット	歴史施設・スポット	歴史施設・スポット	
寺(1)	旧鎌倉道(2)	—	
住宅・団地	住宅・団地	住宅・団地	
団地(7) 脱温暖化モデル住宅(3)	—	—	
施設	施設	施設	施設型
子育て支援拠点いっほ(5) 十日市場駅(1)	アパロン・ヒルサイドファーム (乗馬場の休憩所)(1) 地域ケアプラザ(2) ログハウス(きりっ子ランド)(5)	地域交流拠点ひまわり(1) 若葉台小学校(1) 地区センター(2) 親と子のひろばそらまめ(2) 若葉台スポーツ文化クラブ(1)	

※1 ( )内の数字は思い出として語られた件数を示す  
※2 太字+下線はたからものマップに掲載されている場所を示す。  
※3 ヒアリング調査をもとに得られた情報で場所が不明なものは件数に含めていない。



▲太鼓橋の桜(十日市場)

▲霧ヶ丘公園(霧ヶ丘)

▲ログハウス(霧ヶ丘)

▲ふれあい広場(若葉台)

図8 各地の思い出のある場所の例

また、愛着のある場所として多くの人が選択した場所は、たからものマップにて示された各地区の空間的特徴と重なりがみられる。例えば、十日市場では「十日市場駅(42.6%)」や「緑図書館(31.3%)」、「地区センター(20.3%)」などの施設型と「桜並木(52.3%)」や「田んぼ・田園風景(31.5%)」、「新治市民の森(26.7%)」、「公園(29.7%)」といったオープン型のどちらも愛着のある場所として回答率が高い。これらは駅や公共施設、そして自然環境と計画的に配置された公園・街路を有する当該地区の特徴とも付合する。

また、霧が丘では、「公園(66.9%)」のほか、道路・街路に類する「桜並木(57.3%)」や「あかみち(43.2%)」、そして、緑地である「新治市民の森(29.7%)」、「三保市民の森(25.4%)」といったオープン型に対する回答率が高いことから、道路・街路を通じて公園や緑地がつながり合うといった当該地区の特徴と愛着の重なりがみられる。

そして、若葉台では「桜並木(78.1%)」や「自転車と分離された歩道(40.2%)」、「イチョウ並木(35.5%)」などの道路・街路に類する場所のほか、公園・広場に類する「公園(32.6%)」、「グラウンド(22.8%)」など、オープン型の場所に対する回答率が高いことから、自然豊かで安全な歩行空間と計画的に配置された公園・広場といった、当該地区の特徴的な空間に愛着が重なっている。

一方、歴史施設・スポットに類する場所は、回答率が低い傾向にあった。

表7 各地区の愛着のある場所

十日市場 公園・広場	霧が丘 公園・広場	若葉台 公園・広場	属性
公園 (29.7%) 十日市場駅前広場 (17.4%)	公園 (66.9%) 緑テニスコート (2.5%) 霧が丘テニスコート (2.5%)	公園 (32.6%) グラウンド (22.8%) ふれあい広場 (14.2%) じゃぶ池 (12.5%) テニスコート (7.7%)	オープン型
道路・街路	道路・街路	道路・街路	
桜並木 (52.3%)、プロムナード (駅から太鼓橋までの通り) (17.9%) イチョウ並木 (11.5%) 太鼓橋 (3.8%)	桜並木 (57.3%) あかみち (43.2%) 富士山の見えるポイント (15.0%) モミジ並木 (7.1%)	桜並木 (78.1%)、自転車と分離された歩道 (40.2%) イチョウ並木 (35.5%)	
農地・緑地・里山	農地・緑地・里山	農地・緑地・里山	
田んぼ・田園風景 (31.5%) 新治市民の森 (26.7%)	新治市民の森 (29.7%) 三保市民の森 (25.4%)	幌子川水源、小川アメニティ (14.9%)	
歴史施設・スポット	歴史施設・スポット	歴史施設・スポット	
日向山神社 (10.5%) 泣き坂 (6.4%)、寶袋寺 / 庚申塔 (5.1%)、北門古墳群 (1.3%) 十日市 (1.3%)	大井天功徳天社・開発記念碑 (2.5%)、旧鎌倉道 (7.3%)	杉並木 (12.5%)	
住宅・団地	住宅・団地	住宅・団地	
施設	施設	施設	
十日市場駅 (42.6%) 緑図書館 (31.3%) 十日市場地区センター (20.3%) 十日市場小学校 (13.8%) 十日市場中学校 (12.1%) 子育て支援拠点いっぽ (7.7%) 十日市場地域ケアプラザ (3.8%) 老人福祉センター緑ほのほの荘 (0.8%) みどり福祉ホーム (0.3%)	霧が丘学園 (19.8%) ログハウス (きりっ子ランド) (19.2%) 霧が丘商店会 (13.3%) あすか幼稚園 (10.5%) 霧が丘地域ケアプラザ (8.8%) 横浜マドカ幼稚園 (8.5%) 霧が丘高校 (6.8%) 薬洋英和女学院大学 (6.5%) バウハウス霧が丘保育園 (6.2%) 多世代交流サロンあかしあ (2.8%) アロン・ヒルサイドファーム (2.0%) 横浜創英大学 (1.7%) 昭和大学横浜キャンパス (1.4%) インターナショナルスクール (0.6%)	地区センター (21.3%) 若葉台小学校 (16.4%) 横浜温泉チャレンジヤシ (16.3%) 若葉台中学校 (13.9%) 若葉台スポーツ文化クラブ (11.0%) ダイニング春 (6.5%) わかば親と子の広場そらまめ (5.6%) わかば学園 (4.2%) 若葉台保育園 (3.9%) 斎達 (3.4%) フレスクール若葉幼稚園 (3.2%) 地域交流拠点ひまわり (3.2%) 星塚中学・高等学校 (2.5%) オーセルわかば幼稚園 (2.1%) わかばの森保育園 (0.8%) 居宅介護支援事業所あさがお (0.6%)	

※1 ( )内の数字は愛着のある場所の回答率を示す。  
※2 太字+下線はたからものマップに掲載されている場所を示す。

### 3-3. 愛着・思い出のある場所の特徴

愛着及び思い出のある場所として「公園」が共通して選ばれている。たからものマップにおいても多くの「公園」が地域資源として位置付けられていることから、このような地域の特徴的な空間である「公園」は、当該地域において愛着を育む場所として位置付けられるといえる。特に「思い出のある場所」において公園での思い出が挙げられていることから、個人の記憶や思いが積み重なった場所であるといえる。

次に、桜並木をはじめとした「道路・街路」においても愛着・思い出の重なりがみられた。「道路・街路」はそれぞれの地区における特徴的な風景や景観を臨むことができる場所であり、富士山がみえる場所といった特別感や、散歩や通勤などの日常的な移動経路でもあることから、そうした体験が結びついて愛着を育む場所になっていると考えられる。特に、霧が丘や若葉台においては、歩行者専用道路が計画的に配置されていることから、安全で移動を容易にする空間として愛着を集めており、開発当時の計画手法に対する評価ともいえる。

一方「歴史施設・スポット」に関しては、たからものマップにおいて特徴的な空間として挙げられているものの、愛着・思い出のある場所として触れられることは少ないといった相違がみられた。

さらに「施設」は、たからものマップでは多くの種類の場所が挙げられたのに対して、思い出のある場所では、その数が限定的であり、また、愛着のある場所においては、代表的な施設に回答が集中するなど、偏りがみられた。そのなかでも「子育て支援拠点」や「きりっ子ランド(ログハウス)」は、思い出のある場所として多く挙げられていることから、子育てといったライフステージで体験した記憶が、愛着と紐づいた特徴的な場所となっている。

### 4. 愛着のある場所とデモグラフィック要因との関連

前章の愛着・思い出のある場所では、昔の記憶や現在の日常的な記憶のほか、子育てなどのライフステージにおける思い出が各地区の特徴的な空間と紐付けられて多く語られていた。そこで、本章では、昔の記憶と関わる「居住年数」、日常的な記憶に繋がる地域での「ライフスタイル」、イベント的な思い出に関わる子育ての「ライフステージ」といったデモグラフィック要因と、愛着のある場所との関連について、アンケート調査の結果をもとに定量的な分析を行った。

このため、回答者の職業を、家事専業、無職、学生、パート・アルバイトなどの「在宅型」と会社員、公務員、自営業などの「非在宅型」とに分類し、地域での「ライフスタイル」を示す指標とした<sup>4)</sup>。また、末子の子どもについての回答を、「なし」、「小学生以下」、「中学生以上」の3つに分類し、子育ての「ライフステージ」を示す指標とした。

#### 4-1. 愛着のある場所への志向性

本節では特徴的な空間の属性であるオープン型と施設型のいずれの場所により愛着があるかの志向性と、デモグラフィック要因との関連について分析した。このため、回答者がどちらの属性の場所に対して、より愛着があるかを示す指標として、次式により「愛着志向性」を定義した。

##### 愛着志向性

$$= (\text{オープン型回答数} / \text{オープン型選択肢数}) - (\text{施設型回答数} / \text{施設型選択肢数})$$

この数値は1から-1の値をとり、1に近いほど公園や道路・街路などのオープン型の場所に対してより愛着があることを示し、-1に近いほど地区センターや学校などの施設型の場所に対してより愛着があることを示す。さらに0に近いほど2つのタイプの場所に同じように愛着があることを示す。なお、本指標の特性から愛着のある場所の回答数が0の回答者は分析から除外している。

この愛着志向性が、居住年数・ライフスタイル・ライフステージの3つのデモグラフィック要因とどのように関連しているかを、t検定または一元配置分散分析と多重比較により検討した。

この結果、十日市場と霧が丘では、居住年数により愛着志向性の平均値に統計的な有意差がみられた(表8)。多重比較の結果から、両地区とも、「20年以上」の群が、「5年未満」の群より愛着志向性の平均値が有意に高く、居住年数の長い人の方が、短い人よりもオープン型の場所に愛着があることが示された。

表8 地区別にみた居住年数と愛着志向性との関連

	居住年数								F
	5年未満		5~10年		10~20年		20年以上		
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
十日市場	0.03	0.13	0.10	0.18	0.08	0.16	0.11	0.16	5.09 **
霧が丘	0.16	0.11	0.19	0.15	0.20	0.17	0.25	0.17	5.49 **
若葉台	0.20	0.15	0.18	0.15	0.21	0.20	0.21	0.16	0.71

\*\*p<0.01, \*p<0.05 ※多重比較:十日市場・霧が丘とも5年未満<20年以上

次に、ライフスタイルとの関係では、若葉台において「在宅型」か「非在宅型」かによって愛着志向性の平均値に統計的な有意差がみられた(表9)。「在宅型」の群が「非在宅型」の群より愛着志向性の平均値が高く、この

地区では「在宅型」のライフスタイルの人の方がオープン型の場所に対して、より愛着のあることが示された。

表9 地区別にみたライフスタイルと愛着志向性との関連

	ライフスタイル				t値
	在宅型		非在宅型		
	平均	SD	平均	SD	
十日市場	0.08	0.17	0.08	0.15	-0.15
霧が丘	0.24	0.17	0.21	0.16	1.64
若葉台	0.22	0.16	0.19	0.17	2.85 **

\*\*p<0.01, \*p<0.05

さらに、いずれの地区においても、子育てのライフステージにより愛着志向性の平均値に統計的な有意差が見られた(表10)。いずれの地区でも、「なし」の群の愛着志向性の平均値が有意に高く、子どものいない人で、オープン型の場所により愛着がある。このうち、十日市場や若葉台では、「なし」の群より「小学生以下」の群で、愛着志向性の平均値が有意に低く、これら2つの地区では、小学生以下の子どもをもつライフステージにある人では、オープン型だけでなく、施設型の場所にも愛着のある人が多いと考えられる。一方、霧が丘では「なし」の群より「中学生以上」の群で、愛着志向性の平均値が有意に低い。つまり、中学生以上の子どもをもつライフステージにある人で、オープン型だけでなく、施設型の場所にも愛着のある人が多いことが示された。

表10 地区別にみたライフステージと愛着志向性との関連

	子育てのライフステージ						F
	なし		小学生以下		中学生以上		
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
十日市場	0.10	0.16	0.04	0.17	0.08	0.14	3.09 *
霧が丘	0.25	0.16	0.20	0.18	0.16	0.16	6.32 **
若葉台	0.22	0.16	0.13	0.16	0.22	0.18	6.24 **

\*\*p<0.01, \*p<0.05

※多重比較 十日市場:なし>小学生以下 霧が丘:なし>中学生以上 若葉台:なし,中学生以上>小学生以下

以上の通り、十日市場や霧が丘では居住年数が長い人で、若葉台では居住年数に関係なく、在宅型のライフスタイルでオープン型の場所に対する愛着がより高いことが確認された。開発前の植生の保全など若葉台地区における緑豊かな空間的特徴が、在宅型のライフスタイルの住民にとって、オープン型の場所により愛着をもつ一因になっていると考えられる。

また、十日市場や若葉台では小学生以下の子どもの子育てにあるライフステージで、オープン型だけでなく、施設型に対する愛着も高い傾向がみられた。地区センターなどが立地するこれらの地区では、小学生以下の子どもをもつ住民には、親子での遊びやイベントの場ともなる施設での思い出が重なり、オープン型だけでなく、施設型の場所への愛着も高くなったと考えられる。一方、小中一貫校である霧が丘学園のほか高校や大学などの施設が立地する霧が丘では、学校での思い出などから、中

学生以上の子どもをもつライフステージにある住民で、施設型に対する愛着も高くなったと考えられる。

#### 4-2. 愛着のある場所の選択数との関連

既報では、愛着のある場所を複数選択していることが地域への定住意向と関連があることを明らかにした。そこで、本節では愛着のある場所の選択数と、デモグラフィック要因との関連を $\chi^2$ 検定による独立性の検定を行い、その後、有意な関連については残差分析により調整済み残差の有意性(有意水準5%)を統計的に判定した。

独立性の検定の結果、居住年数については、霧が丘および若葉台でいずれも有意な関連がみられ、地域でのライフスタイルについては、十日市場と若葉台で有意な関連がみられた。さらに、子育てのライフステージについては、霧が丘において有意な関連がみられた(表11)。

表11 地区別にみたデモグラフィック要因と選択数との関連

	十日市場		霧が丘		若葉台	
	$\chi^2$	V	$\chi^2$	V	$\chi^2$	V
居住年数	20.48	0.13	30.23 **	0.18	40.05 **	0.12
ライフスタイル	9.72 *	0.16	5.11	0.12	12.09 *	0.12
ライフステージ	13.15	0.13	21.01 **	0.17	6.41	0.06

\*\*p<0.01, \*p<0.05 V:クラメールのV

これらの有意な関連のうち、居住年数についての残差分析からは、霧が丘と若葉台の両地区とも居住年数が「5年未満」の群で愛着のある場所の選択数が「0(無回答)」が有意に多く、「5年～10年未満」の群で「1ヶ所」が有意に多い。一方で、「20年以上」の群では「0(無回答)」が有意に少ない関連がみられた。さらに、霧が丘では「10年以上～20年未満」の群で「4～5ヶ所」の回答数が有意に多く、若葉台では「20年以上」の群で「6ヶ所以上」の回答数が有意に多い関連がみられた(図9、図10)。

このように、霧が丘と若葉台では居住年数が短い人では愛着のある場所が少ないのに対し、居住年数が長い人では愛着のある場所が多い傾向にある。これらの地区では、長く住むことで、それだけ地区のことをよく知り、地区での思い出も増えて、愛着のある場所が多くなっていると考えられる。

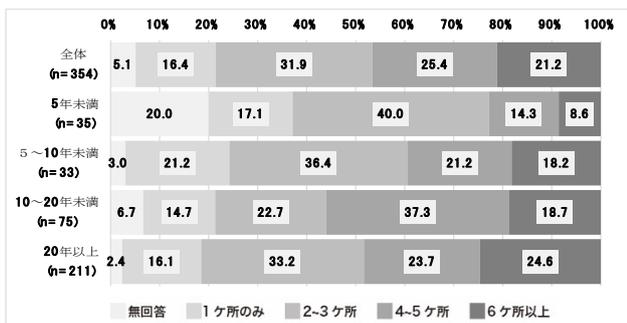


図9 居住年数別「愛着のある場所」の選択数(霧が丘)

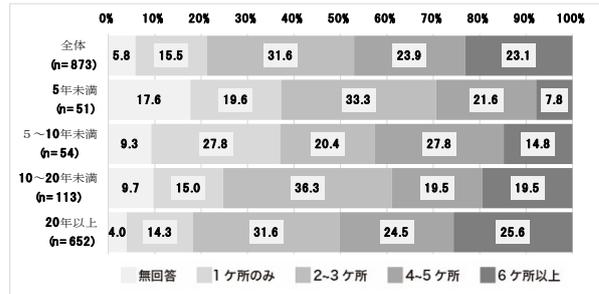


図10 居住年数別「愛着のある場所」の選択数(若葉台)

次に、地域でのライフスタイルについての残差分析からは、十日市場では「在宅型」の群で「無回答」が有意に少なく(図11)、若葉台では「在宅型」の群で「6ヶ所以上」の回答が有意に多く関連がみられた(図12)。

このように、若葉台では「在宅型」のライフスタイルの人は、「非在宅型」の人に比べ、愛着のある場所が多い傾向があり、地域で過ごす時間が長いライフスタイルが、愛着のある場所を多く有することにつながっていると考えられる。若葉台は、緑豊かなオープンスペースをはじめ、テニスコートやグラウンドといったオープン型のスポーツ施設を有しており、これら空間的特徴が在宅型のライフスタイルと結びつき、愛着のある場所を増やす一因になっているのではないだろうか。

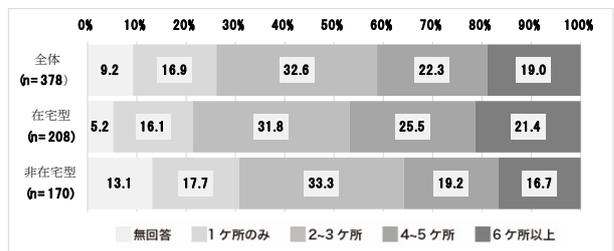


図11 ライフスタイル別「愛着のある場所」の選択数(十日市場)

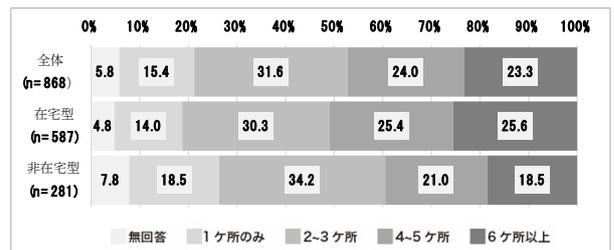


図12 ライフスタイル別「愛着のある場所」の選択数(若葉台)

さらに、子育てのライフステージについての残差分析からは、霧が丘では、「小学生以下」の子どもがいる群で「1ヶ所」の回答が有意に少なく、「6ヶ所以上」の回答が有意に多い。一方で、「なし」の群で「1ヶ所」の回答が有意に多く、「6ヶ所以上」の回答が有意に少ない関連がみられた(図13)。

これより、霧が丘では小学生以下の子どもを持つ人が、地域と関わる時間や機会を通じて、愛着のある場所

が増えていると考えられる。霧が丘には、2つの幼稚園のほか、子どもの遊び場であるログハウスなどの特徴的な空間があり、これらが小学生以下の子どもを持つ人で愛着の場所が多くなる要因と考えられる。

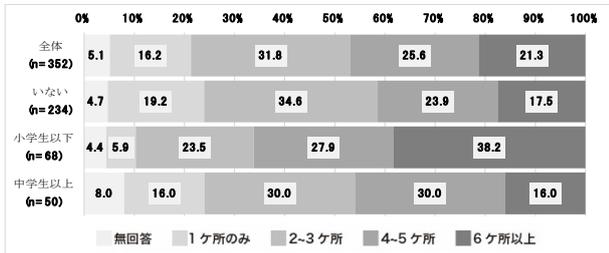


図 13 ライフステージ別「愛着のある場所」の選択数(霧が丘)

以上、思い出などで多く語られた昔の記憶と関わる「居住年数」、日常的な記憶に繋がる地域での「ライフスタイル」、イベント的な思い出に関わる子育ての「ライフステージ」といったデモグラフィック要因と、愛着のある場所との分析を行った結果、居住年数が 20 年以上の人では、オープン型の場所により愛着があることや(十日市場, 霧が丘)、愛着のある場所の数が多くなること(若葉台)などが明らかになった。

このほか、緑豊かなオープンスペースとグラウンドなどオープン型のスポーツ施設を有する若葉台では、在宅型のライフスタイルにある人は、オープン型の場所により愛着を有し、かつ、愛着のある場所の数も多いことがわかった。さらに、幼稚園から大学までの教育機関が多く、また、公園や特徴的な街路を有する霧が丘では、小学生以下の子どもをもつ人で愛着の場所の数が多く、中学生以上の子どもをもつ人では、オープン型と施設型の場所の両方に愛着を持つ人が多いといった傾向がみられた。このように、各地区の空間的特徴が愛着のある場所の数や志向性に影響していることが明らかになった。

## 5. まとめ

本稿では、横浜市の郊外住宅地において実施した「地域への愛着を育む取組」に対して、検証を行いその成果を把握した。そこでは、地域への愛着を育むという取組の目的および内容に対して一定の評価が得られた。また、これら取組が、地域に対して新たな発見を促すとともに、定住意向の醸成につながるとされるなど、その成果がみられた。一方で、取組成果の発信が課題とされ、また、取組の継続性を踏まえた今後の展開について意見が示された。

また、地域住民の愛着が育まれる場所に着目し、実践的取組によって得られた情報より、その特徴を明らかに

した。そこでは、開発当初に整備された公園や歩行者専用道路、駅前のプロムナードなどのオープンスペースが多く挙げられた。このことは、開発時の住宅地計画に対する評価と捉えることができる。

このほか、季節の移り変わりを感じる並木や富士山へのビューポイントを有する道路・街路なども多く選ばれており、これらは散歩や通勤・通学など日常的に利用する移動経路として位置づけられる。加えて、駅や地区センターといった、身近な施設も多く挙げられるなど、日常生活において利用する場所が、愛着や思い出が重なる場所になっているといえるだろう。

さらに、デモグラフィック要因と愛着のある場所との分析より、地区の空間的特徴が、愛着のある場所の数の違いや志向性に影響していることが明らかとなった。

以上より、今後の持続可能な郊外住宅地づくりにおいては、地域資源の発掘・発信の取組を通じて、その地域の価値や魅力を可視化し、地域内で共有する中で新たな気づきを得ることが重要であるとともに、個人の愛着や思い出が育まれるオープンスペースに対して、関わりしるをもった活用や運用を試みていくことが求められるといえる。またそこでは、地域住民のライフスタイルやライフステージ、居住年数といった属性を鑑みたアプローチを有することで、より多くの住民が地域に対する愛着を深めることができ、ひいては定住意向の醸成につながると考えられる。

## 【注釈】

- (1) 横浜市と神奈川大学は 2017 年 2 月に協定を締結している。そこでは、1. 地域への愛着を育む取組に関する事項、2. 交流・活動・居場所づくりに関する事項、3. 地域の魅力の発信に関する事項について連携することとなっている。なお、筆者らは協定締結前の 2016 年より横浜市(建築局住宅再生課)と協働して活動している。
- (2) 当該報告は、持続可能な郊外住宅地の実現に向けて実施した取組内容を報告するとともに、得られた傾向より地域への愛着を育む取組みの可能性について検討したものである。参考文献 上野正也, 山家京子, 松本安生: 横浜市郊外住宅地における地域資源の発掘と発信に関する実践的取組, 日本建築学会住宅系研究報告会論文集, 第 16 号, pp. 171-176, 2021. 12
- (3) たからものマップは、下記構成のワークショップ(以下、WS)を通じて制作した。WS で得られた地域資源はその場所を挙げた人数に関わらず等価に扱い、建築学科の学生視点で編集した上で、2 回目 WS で精査し、さらに自治会等の確認を経て完成した。【十日市場 WS】参加者:1 回目 27 名,2 回目 21 名,3 回目 18 名/属性:地域住民, 郷土史家, 地域ケアプラザ職員, 子育て支援拠点職員, 市職員, 学生【霧が丘 WS】参加者:1 回目 34 名,2 回目 22 名/属性:地域住民, 地域ケアプラザ職員, 市職員, 学生【若葉台 WS】参加者:1 回目 25 名,2 回目 26 名/属性:地域住民, まちづくりセンター・県公社職員, 市職員, 学生
- (4) 当該取組は 2017 年~2019 年に行ったため、職業にて分類したが、在宅勤務などが普及した現在は、地域でのライフスタイルを示す指標について改めて検討が必要であり今後の研究課題の一つである。